

キャリア開発

当センターではスペシャリストを目指す看護師を支援する各種制度から、スペシャリストになった看護師が活躍できるフィールドの提供まで、包括的・長期的にサポートしています。

認定看護師



小児救急看護 認定看護師 特任副師長
井出 拓也

私のキャリアパス

- 2001年 長野赤十字看護専門学校卒
↓
小海赤十字病院へ入職
- 2003年 日本赤十字社医療センターへ入職
小児科病棟に配属
- 2006年 ICUに配属
- 2010年 小児救急看護認定看護師の資格取得
救命救急センターに配属

院内外で活躍できるチャンスがある

私が小児救急看護認定看護師を目指そうと思ったのは、集中治療室での看護で、自分の無力さを痛感することが多かったためです。年間3,000件以上の分娩数があり、新生児外科疾患の患者さんも多い当センターでは、“小児を見るスキル”が欠かせません。しかし当時の私には、小児に対するアセスメント力や家族ケアのスキルが不足しているという自覚がありました。半年間休職し、認定看護師の研修に参加させていただいたことで、スキルアップはもとより、地域における家族ケアなどにも視野を広げられたのは貴重な経験となりました。

現在は救命救急センターで、子どもの成長発達を見据えたアセスメントやトリアージなどの実践や、他施設での講義を行なっています。特任副師長の職位を得て、管理面でも力を発揮していきたいと思えます。当センターには、自主性を尊重する風土が根付いています。院内研修も豊富なので、やる気次第でいくらかでも成長できる環境が整っています。

進学の支援（派遣要件と貢献義務あり）

派遣制度を利用

資格取得後の活動

認定看護師による研修や勉強会の開催を支援

当センターの認定看護師（2021年1月1日現在）

分類	人数
救急看護	3
皮膚・排泄ケア	3
集中ケア	1
緩和ケア	2
がん化学療法看護	2
感染管理	2
糖尿病看護	1
新生児集中ケア	3
透析看護	1
小児救急看護	1
認知症看護	1
慢性呼吸器疾患看護	1
がん放射線療法看護	1
計	22

専門看護師



がん看護 専門看護師
富澤 絵美

私のキャリアパス

- 2001年 日本赤十字看護大学看護学科卒
↓
日本赤十字社医療センターへ入職
消化器外科・内科混合病棟に配属
- 2013年 休職して日本赤十字看護大学大学院看護学研究科修士課程看護学専攻がん看護学領域CNSコースに入学
- 2015年 大学院修了
↓
日本赤十字社医療センターに復職
がん看護専門看護師の資格取得

「真のチーム医療」で、緩和ケアに向き合う

大学院に進学したのは、看護師となって12年目のこと。当時、緩和ケア病棟に勤務するなかで「がん性疼痛のつらさを緩和し、患者さんやご家族により安心していただくためにはどうすればよいのか」という思いが募り、専門看護師の資格取得が必要だと実感したからです。

当センターでは医師、薬剤師、臨床心理士、医療ソーシャルワーカーなど多くの専門職が協働し、患者さんやご家族を支える高度なチーム医療を実践しています。看護師はその中で不可欠な存在です。重要なのは他職種同士であってもお互いに関心を持って援助し合い、各自が専門性を発揮できるように連携することです。専門看護師としての学びを通じてそうした理解を深め、現在は緩和ケア病棟での看護業務に当たるほか、がん看護相談担当者として院内のがん患者さんに対するコンサルテーションも受け付けています。患者さんやご家族の背景や思いに向き合い、信頼されるチーム医療に貢献したいと考えています。

進学の支援（休職要件と貢献義務あり）

休職制度を利用

資格取得後の活動

看護専門外来の開設や横断的な活動を支援

当センターの専門看護師（2021年1月1日現在）

分類	人数
がん看護	5
精神看護	1
地域看護	1
小児看護	1
慢性疾患看護	3
急性・重症患者看護	1
家族支援	1
老人看護	2
計	15

救護活動

当センターは、赤十字の救護活動に携わる使命があり、国際医療救援拠点病院として、国際赤十字の国際救援・開発協力事業に要員を送り出しています。救護員になるための研修体制が整備され、各種支援も行なっています。

❖ 赤十字救護員（国内救護活動）



ICU勤務
北 恵里奈

私のキャリアパス

2007年 横浜市立大学看護短期大学部卒
↓
横浜市立大学医学部付属病院へ入職
CCUに配属
2012年 日本赤十字社医療センターへ入職
ICUに配属
2015年 日本赤十字救護員登録

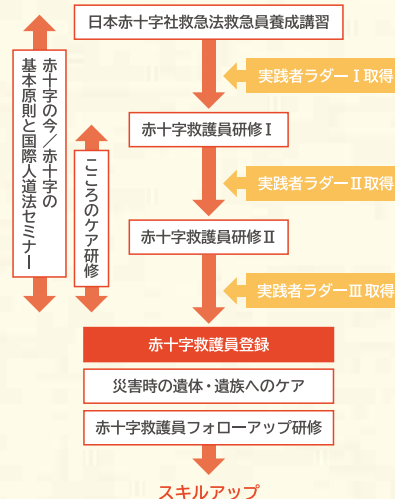
今、起こるかもしれない災害に備え、「看護の力」を高める！

私が当センターに入職した前年に、東日本大震災がありました。それまで、災害時の看護にはそれほど関心はなかったのですが、発災から1年ということもあり、病院全体が被災地への支援に大きな力を入れていました。それを間近で見ているうちに、「私も救護員になりたい!」という気持ちが強くなりました。

日赤の救護員は、院内で「救護員研修Ⅰ・Ⅱ」を受けることで認定されます。これらはトリアージや三角巾法など、災害時における看護技術を学ぶための研修ですが、それに加えて傷病者の心のケアなどについても教育を受けます。こうした研修のほか、年間10回ほど、地域や日赤独自の災害派遣に関する訓練も行われます。

私は、日赤と海上保安庁との合同訓練に参加しました。海上保安官の皆さんの、職務への強い責任感と高度な技術を目の当たりにして、私たち看護師も、さらに災害時の「看護の力」を高めなければならないと感じました。

赤十字救護員プログラム



❖ 国際救援要員（国際救援活動）



婦人科・化学療法科等の混合病棟勤務
藤田 好美

私のキャリアパス

2006年 ネバダ州立大学リノ校看護学部卒
2009年 日本赤十字社医療センターへ入職
ICUに配属
2016年 婦人科・化学療法科等の混合病棟に配属
2017年 国際救護・開発協力要員登録
2018年 パレスチナ赤新月社医療支援事業（レバノン）長期派遣（半年間）

海外派遣で学んだ「看護の本質」

中東レバノンには、70年間にわたり難民生活を続ける「パレスチナ難民キャンプ」があります。私がキャンプ内の赤十字病院に国際救援要員として派遣されたのは、当センターに入職して10年目のときでした。

主な任務は、現地の医療者に創傷処置や心電図の見方、フィジカルアセスメントなどの医療技術を伝えること。そこで実感したのは、国際救援HV要員にとって、「身につけている看護技術や専門性が大切だ」ということです。帰国後は、日々の業務を“なんとなく”こなすのではなく、看護の本質を一つひとつ見極め、着実に看護技術を積み上げていく意識を持つようになりました。

赤十字には人道や博愛の精神が根付いています。当センターにも患者さんのことを第一に考え、高い倫理観を持って看護にあたる先輩たちが大勢います。海外というフィールドで活躍できるのも日赤ならではの。とても刺激的な職場ですから、きっと、多くのことを学んでいただけたと思います。

国際救援要員研修

